

国際金融経済

谷内 満 教授

1. 専門分野・現在の研究テーマ

専門分野は、国際金融論、マクロ経済学。

31年間行政官として経済政策の企画立案や日本経済・世界経済の分析を担当。世界銀行エコノミスト、APEC経済委員会議長、内閣府政策統括官などを経て、2004年より本学商学大学院教授。

行政官時代は、内外の金融、マクロ経済の幅広い問題について政策担当者の立場から政策指向(policy-oriented)の調査分析を行ってきた。本学教授就任の04年以降は、グローバル不均衡、日本の経済政策、中国の金融システムなどについて研究。

著書は“The Japanese Economy –Then, Now, and Beyond–” Cengage Learning 2014, 「入門 金融の現実と理論 第2版」(センゲージラーニング、2013年)、「グローバル不均衡とアジア経済」(晃洋書房、2008年)、「アジアの成長と金融」(東洋経済新報社、1997年)など。「平成13年度経済財政白書」(国立印刷局、2001年)の執筆責任者。

最近の論文は、「ドル基軸通貨体制のゆくえ」(早稲田商学)、「金融の国際化—その特徴と成長との関係—」(早稲田商学)、「グローバル不均衡—世界金融危機との関係とゆくえ—」(慶應義塾大学/内閣府経済社会総合研究所)、「日本の外貨準備の政策分析」(国際協力銀行開発金融研究所報)など、英文論文には“A Policy Study on Japan’s Workplace” (The Waseda Commercial Review), “Recent Developments in Japan’s Financial Sector” (Journal of Asian Economics, USA), “Economic Reform in Japan and Its Implications for Asia” (OECD publication, France)などがある。

他に日本経済、世界経済の諸問題についての評論執筆・講演、企業年金の資産運用アドバイスなどを行っている。

2. 指導方針

国際金融と各国経済は、複雑でダイナミックな関係を持っている。アジア金融危機などの国際金融危機の原因を解明し、未然に防ぐ方策を考えるためには、国際的資金移動や為替制度などの国際金融の動向を把握するだけでは不十分で、国際金融と各国の国内経済の相互関係を理解しなければならない。1国の銀行システムの脆弱性は、当該国経済の成長を阻害するだけでなく、国際金融の攪乱要素ともなる。あるいは日本経済の空洞化問題や中国の国内経済の発展を理解するためには、近年ダイナミックに変化している海外直接投資の動向を把握する必要がある。

国際金融経済のテーマを研究するためには、国際金融論のみならず、経済学特にマクロ経済学に関する十分な理論的基礎が要求される。幅広い理論的知識を持って現実問題を柔軟に考えられる人材、国際的にも活躍できる人材を養成する。

3. 学生に対する要望・その他

博士後期過程入学時において、すでにマクロ経済学と国際金融論の理論的基礎をしっかり身につけていることが前提である。かつ博士論文のテーマについては、関係論文のレビューを踏まえてこれまでの研究とは異なる独自の分析アイデアを具体的に持っている必要がある。数多くの英文論文を読みこなす読解力が求められる。

(参考ウェブサイト) [谷内満のホームページ](#)